名草里山を若者に発信するマップを作ろう！

地域：栃木県足利市名草地域
パートナー：後藤芳枝さん、早川恵理子さん
調整担当：柏瀬誠さん

10班　コミュニティデザイン学科：若狭蓮 手塚匠
建築都市デザイン学科：柴蒼真　常川京資
社会基盤デザイン学科：中村亮介
担当教員：藤原紀沙助教

背景

栃木県足利市にある名草地区は現状、高齢化、雇用状況の悪さ等の要因から転出過多となっており、とくに若年層の人口減少が進んでいる。
またそれに伴い、空き家、空き農地の増加、体験型観光の衰退などの要因から、人がなかなか訪れにくい地域になってしまっている。

しかし名草には自然や農業、合宿などで利用できる施設など豊富な地域資源があり、毎年一定数の大学生が合宿などで訪れている。

目的

・「若者が継続的に訪れる名草にする」
↓
そのための第一歩として、ゼミやサークルなどで訪れてくれる大学生をメインターゲットに「名草の魅力や実際にできること」を発信する。
↓
実際に名草の良さを紹介、体感してもらうことで最終的に「関係人口の創出」を目指す。

3rdサイクル

3rdサイクルでは、これまで活動を続けてきた中で、若者に名草地区を訪れてもらうためには唯一性が無ければならないという新たな課題が見つかった。
これに対応すべく、自分たち(大学生)ならではの目線で、若者が「来たい！」と思えるような紹介をしてみるという目的を設定した。
これには観光マップの作成が有効なのではないかと話し合いのうちで出たが、プロトタイプのマップでは、従来のものと変哲のないマップになってしまっていた。
この課題を解決すべく、名草地区を改めて回ってみることで、意外と知られていない場所、地域の人との交流ができる場所、農業体験ができる場所、多くの地域資源が存在することを再確認し、ただの「観光マップ」ではなく、自分たちが行きたいと思う「宇都宮大学地域デザイン科学部の生徒が作った観光マップ」としてパンフレット形式のマップを作ってみようという目標を設定した。

写真5 話し合いの様子

1stサイクル

１ｓｔサイクルでは背景にもあるように、転出多過に伴う人口減少という課題から、名草の関係人口を増やすことを目的として、名草の持つ魅力の調査と拠点となる名草クラフトセンターの調査を行う事を第一の目標とした。

＜調査方法＞
地域パートナーの方に名草の資源を案内してもらう。

＜分析結果＞
・豊富な観光資源の存在が明らかになった
→釣り堀施設のイワナパーク
　貸し切り可能なキャンプ施設
　田植え体験等の農業体験
　名草巨石群を初めとする豊かな自然環境

写真1 ピザ窯

＜見つかった課題＞
・名草クラフトセンターは古民家をリノベーションした場所であり、水道、ガスなどのインフラ設備が整っていない。
・若者の拠点となり得る資源は豊富にあるが、その土地の所有者の都合から柔軟に利用できない。

マップの作成

マップでは以下のパンフレットを作成して紹介する。

写真6 パンフレット

2ndサイクル

2ndサイクルでは、まず名草クラフトセンターの利便性を向上させた。具体的には、井戸水の開通、コンポストトイレの設置を行った。しかし、まだまだ拠点とするには不便な点が多いため、ターゲットをゼミやサークルの大学生に定め、大人数で泊まれる宿泊施設を活動の拠点とすることにした。そこで名草地区の宿泊地を調査することにした。

写真2 コンポストトイレ

〈調査方法〉
実際に名草地区の宿泊地候補を地域パートナーの方に案内していただき調査する。

〈分析結果〉
・名草セミナーハウス
廃校になった中学校を宿泊施設として再利用した施設。一部屋に10数人入れる部屋がたくさんあり、大人数での宿泊に適している。キッチンや風呂など設備も充実。

・喜久屋
宿泊施設に改築している元酒屋。15人ほどの宿泊が可能なため、ゼミやサークルの合宿に使える。名草に入ってすぐのところにあるので、比較的アクセスしやすい。

写真3,4 セミナーハウス

マップの利用法の提案

マップでは大きく体験、宿、食べ物の3つにいての紹介を行っている。また、名草に住んでいる人にしか分からない魅力の詰まった情報を載せているのでこのパンフレットだけで旅行者の1日のプランが決められるよう意識して作成した。駅の構内に設置してもらえるよう許可取りを行いすぐに目について利用してもらえるようにする。

まとめ

今回のプロジェクトでは「名草の魅力」を調査し、「ゼミや合宿で訪れる大学生」をメインターゲットにマップの制作という形で「名草の魅力発信」の方法を提案した。

「マップ」が一つの名草を楽しむための手段となり、訪れてくれた人が「また来たい」「今度はこれをやってみたい」などの思いを持ち、「名草の関係人口」が増加することを期待する。